ISSN 0286-8229

University of the Ryukyus Library Bulletin Vol.31 No.3 (No.119) July 1998

教室を飛び出した教材

医学部分館長　武藤　良弘

大辞林には、「図書館」とは「図書・記録やその他の資料・情報を収集・整理・保管して利用に供する施設」と記載されているが、どうも一つピンとこない。その理由は図書館がコンピュータウイールスに感染し、耐性を獲得して、新しい図書館に生まれ変わろうとしているからだといえる。

中世から現代までの大学は、その時代のニーズに応じて創設され、変革してきた。中世では、大学は「古典大学」と呼ばれ、学問するための、学問中心のみの大学でしかなかった。その後の日本では、戦前までの大学は「旧制大学」と言われ、近代国家建設のためのエリート養成のための大学であった。

戦後は、高度経済成長を担う各分野の指導的人材養成の「新制大学」、そして現在の豊かな

目　次

教室を飛び出した教材…… 1
米国大使館から附属図書館へ図書寄贈…… 2
「琉球の種痘」－金城清松先生の偉業－…… 3
本学教官著作寄贈図書案内…… 5
ライブラリー・ワークショップ・プログラム… 6
CA on CDの利用説明会開催される…… 7
琉球大学附属図書館のあゆみ －3－…… 8
留学生コーナーがリニューアルされる！
-「海外衛星放送受信システム」等の導入- …13
附属図書館に研究開発室を設置……14
平成10年度科学研究費補助金「研究成果
公開促進費」申請、内定される……14
沖縄関係資料新着案内……15
お知らせ……21
図書館事情……22
附属図書館の自己点検評価報告書を刊行！…23
医学部分館だより……24
図書館映画会……24

附属図書館のホームページ（http:// www.lib.u-ryukyu.ac.jp/）もご覧下さい。

社会における高校教育の延長として大衆化された「ニュー新制大学」の時代と進んできた。そして、教育方法は知る者（教官）が知らない者（学生）に知識とその獲得方法を与えると言う、知識の落差が前提であった。しかし、現在の大学の教育は教官と学生が向かい合って、学生が求める知識や技能などを提供しなければならない。

前述のように、大学はその時代の創設理念に基づいて、それなりの社会的役割を果たしてきたのと呼応して、大学の図書館も変容してきた。博物館的な古典文学より図書・資料の記述文学、そしてマルチメデイア文学と変遷してきた。そして図書館は「文化の宝庫」から「マルチメデイア提供施設」と変革しつつある。言い換えると、図書館は「空間に飛び交う情報の捕獲基地」と言える。

情報のとらえ方も、電話のネットワーク、ファックス送信に変わるデータ通信用（インターネット用）ネットワークの構築が急がれている。そこで、今後はインターネットによる情報通信が主流になってくる。このインターネットになると、グローバルな話題になるので、ここでは、ごく現実的なコンピュータシステムを利用した情報と知識の取扱い方に話題を絞りたい。

コンピュータを利用した学習方法にはいくつかの方法が考えられる。

1）必要な知識・情報を検索できるシステム（オンライン情報検索システム）
2）学問を提供するシステム（オンライン電子教科書）
3）グループ学習へのサポートシステム（電子メール）

などである。これらのシステムを日常の学生教育の場で利用できる環境を先ず図書館に整備すべきである。

現代の教育は、カリキュラムにそって講義がなされ、学生もカリキュラムがないと講義に一抹の不安を感じる。その結果、カリキュラムの内容は十分に理解し学習できるが、それ以外の知識・情報を学習しようとはしない。カリキュラム教養人間の育成、ガイドライン教育の人間形成につながる。そこで、カリキュラムにない、コンピュータシステムを利用した学習は、自力で問題解決、学習するための「情報収集と分析」に役立て、創造性に富む人間形成に貢献するものと思う。

（むとう　よしひろ:医学部教授　第一外科学）

米国大使館から附属図書館へ図書の寄贈

5月7日に浦添市の在沖米国総領事館で、駐日米国大使館の広報文化局から琉球大学附属図書館への図書贈呈式が行われた。贈呈式には米国大使館のルイーズ・クレイン広報担当公使（写真左）、ロバート・ルーク総領事、桂幸昭学長（写真右）、金城昭夫附属図書館長、石田常亞図書館事務部長、石原昌英琉大アメリカ研究会事務局長らが出席した。

これは昨年7月の500冊の寄贈に続くもので、米国大使館が図書を贈るのは日本の大学では琉球大学だけとのことであり、琉大アメリカ研究会の活動実績が認められたものと言える。寄贈図書は米国の大学で講義を受け持つ各分野の専門家によって厳選された米国の政治、経済、歴史、文学、社会、芸術など幅広い分野にわたる学術研究書343点である。

「琉球の種痘」　－金城清松先生の偉業－

前医学部分館長　福永　利彦

最近、「沖縄の歴史と医療史」（琉球大学医学部附属地域医療研究センター編、九州大学出版会1998年３月31日初版）というハードカバーの立派な書物が刊行された。Ⅰ部　沖縄（琉球）医史概略　Ⅱ部　歴史のなかの医学史　Ⅲ部　沖縄医療史の展開の３部から成る力作である。

琉球の天然痘（痘瘡とも呼ぶ）ないし種痘については、医史概略のなかで「1766年　上江洲倫完が人痘鼻乾菌（註：苗が正しい）法を行う」という記載と「1805年　この頃、痘瘡歌、粟国親雲上編や痘瘡神迎（ちゅらがさかんむけー）が行われた（13年ごとに中国や日本から痘苗を取り寄せ予防的に流行させた）」という記載がある。また、p.45 にはベッテルハイムが藩医であった仲地紀仁にひそかに牛痘種痘法を伝授した、と述べられている。

実は、昭和38年（1963年）に金城清松著の「琉球の種痘」と題する108ページの単行本が発行されている。この書物は、琉球の天然痘と予防のための種痘について、文献的に良く検証し、聞き取り調査も加えた極めて興味深い、すぐれた琉球医学史研究書である。ところが、天然痘が根絶されたこともあってか、忘れ去られようとしていることを筆者は残念至極に思い、ここに紹介したいと考えた次第である。なお、著者金城清松は、琉球大学医学部生理学第一講座の初代教授、故金城清勝先生の厳父に当たられ、筆者は清勝先生よりこの書物のご恵与にあずかったのであった。清松先生は、明治33年に内務省医術開業免許状を取得された、沖縄の医師の草分けであられた。当時医療上の最大課題であった結核の診療と予防に尽くされ、敗戦後も沖縄医学界の長老として指導的な活躍をされていたが、この書物を発刊された1963年は、なんと83才という高齢であられた。

また、この書物に寄せられているいくつかの序文も当時の状況を知る上で興味深い。そのなかで、1962年当時、琉球資料研究会理事、文化財保護委員会専門委員の役職にあった、源武雄の序文の一部を要約すると以下のようである。

1961年の春頃、沖縄タイムスの学芸欄に某郷土史研究家の“旧藩時代における天然痘による人口調節について”という随筆が載った。その主旨は、琉球を支配していた薩摩は琉球が強大になるのを恐れ、その人口を調節するために10数年ごとに天然痘の病菌を持ち込み、天然痘の流行を起こさせていたふしがある…というものであった。私（註：源武雄）は、この説に賛成しかねる。それは、以下の理由による。旧藩時代は本土も琉球も共に人口増加率が低かった。それは、(1) 経済力に乏しい、重税に苦しむ庶民の間に禁令にも拘わらず間引きという、自らの手で行う産児調節が一般になされていた。(2) 産業が未発達で備荒食料作物のイモ等が普及していなかった時代であり、凶作の年には多くの餓死者がでた。(3) 天然痘、コレラ、チブスなど伝染病に対する予防法がなく、流行の度に人口が減少した。(4) 支配者側は、税収（人頭税など）を確保するため労働人口が減少することを極度に警戒した。特に、天然痘は貴賤を問わず人命を奪ったので、これを用いて人口調節をするとは、考え難い。

ただし、琉球政庁では天然痘流行の兆しがあるとき、薩摩や支那から天然痘患者の痘疱痂屑を取り寄せ、広く人痘鼻乾苗法を行い、軽い症状で経過させ、大流行を抑える方法が採られていたようなので、某郷土史研究家はこれを誤解しているのではないか。この点についても、金城清松先生に解明をお願いした次第である。…

そして、琉球政庁は、人痘種痘法を施行するためその材料を薩摩と支那から入手していたことが、「琉球の種痘」で明らかにされている。

この方法が1805年ごろに盛んであったので、前述の「1805年　この頃、痘瘡歌、…」の記載となったのであろう。ここで問題になるのは人痘種痘法（鼻乾苗法）である。この方法は、乾燥した痘疱のカサブタ（痂）を粉末にすりつぶしたものを銀管、または竹筒で鼻腔へ吹き入れる方法であり、ヒトの天然痘ウイルスをヒトへ接種する訳だから、危険性がゼロであるはずがない。危険性には二通りあり、一つは種えつけられた個人の生命の危険であり、他の一つは、その個人が軽症で済み、生命が脅かされることが無かったとしても、目に見えぬ形で周囲へウイルスを散布し流行を起こす可能性である。この後者を予防的措置として止むをえないと捉えるか、人口調節のための支配者の政策と捉えるかの問題があり、筆者は源武雄の考えに同意する。

ここで、天然痘について少し説明しておきたい。というのは、天然痘は既に地球上から根絶されており、日本では1976年以降種痘は廃止された。したがって現在、大学１～２年生に相当する世代より若い人達は種痘を受けておらず、天然痘を知らない人が増えてきたからである。人類は大昔から天然痘によって苦しめられてきた。エジプト古代王朝のラムセスＶ世（BC 1100年頃）のミイラの顔面の天然痘と思われる斑痕（痘疱）の写真は、専門書などによく載っている。天然痘は上述のようにウイルス感染によって起こる疾患である。主な感染経路は空気伝染で、患者の痘疱が乾燥し微細な落屑となると空気中に浮遊し、それを吸入するとウイルスが感染する。致死率は30～50％と非常に高い。治癒しても盲目になったり顔面にアバタが残る。人痘種痘法が行われる以前は、アフリカ、中近東、インド、中国、日本などで、それぞれ独自の天然痘守護神にたいする祈願や呪術が行われていた。

一方、人々は経験から一度天然痘に罹ると二度は罹らないことを知っていた。そこで、更に押し進めて、できるだけ軽い（と思われる）天然痘に承知の上で罹らせる方法を考え出した。それが、人痘種痘法である。この方法は恐らく中近東辺りで起こり、西と東へ伝わったと考えられている。以下「琉球の種痘」を引用すると、日本へは中国を経て伝わった。西洋への広がりは、駐トルコ・イギリス公使夫人（モンタギュー夫人）の熱心な普及活動が有名である。夫人はコンスタンチノープルで息子に人痘種痘を受けさせ、それが成功した。イギリスに帰国後は、娘にもこれを施行し、さらに、成功すれば死刑を免除するという条件を当局から取りつけ死刑囚７名に実施した。幸運にも死亡例はなく、本法の普及に貢献するところ大であった（1721年頃）。ドイツ、フランスでも行われるようになり（1723～4年ごろ）、ロシアの女帝、カザリン皇后は英国人医師、デイムスデールを招き、自分自身のみならず皇太子にも人痘種痘法を施行し、成功した（1768年）。この方法は安全性ではやはり問題があり、死亡する例や小流行もあったはずだが、正確な記録は残されていない。

琉球における人痘種痘法は、1766年に上江洲倫完（那覇西村新嘉喜倫篤家祖）が初めて施行した。これは、日本における最初の人痘種痘法が秋月藩の緒方春朔による1789年であったのより23年も早い。金城清松は『当時、日本は鎖国時代であったのに対し、琉球は支那と自由に交易し、留学生も送っていたので、支那式人痘種痘法が記された「医宗金鑑」も日本より早く輸入されていたからであろう』と述べている。

他方、牛痘種痘法の発見はエドワード・ジェンナーによる。牛の乳絞り達が牛痘（牛の天然痘）に罹るとヒトの天然痘には罹らないという話を耳にし、長年にわたってその事実を確認したのち、近所の少年フィップスに牛痘を接種した（1796年）のが発端である（日本の戦前の小学校教科書では、“息子フィップスに”と改変し、美談として教えていた）。因に、ジェンナーが第一報の論文を英国王立協会学術雑誌に投稿したが拒否され、やむなく自費出版したのが丁度今から200年前の1798年であった。次第に牛痘種痘法の安全性と有効性が一般に認められるようになり、1802年英国議会はジェンナーに10,000ポンドの謝金を送る決議をした。その後英国では人痘種痘法の危険性が明確に認められるようになり、1840年にこれを禁止した。現在、人類が恩恵を蒙っている予防ワクチン接種という考え方は、正にジェンナーから発したものである。語源的にも、ワクチン（VACCINE）という語は、ラテン語の牝牛を意味する“VACCA”か

らジェンナーが転用してつくった新造語である（彼の論文で始めて用いられた）。それが現代では、予防の対象が天然痘以外であっても全てワクチンと呼ばれているのである。

琉球における牛痘種痘法については、金城清松の著書に「琉球における牛痘伝来は 1837年（天保８年、道光17年、尚育王10年）、モリソン号に同乗して那覇港に寄港した支那在住の米医師パーカーが伝授したのと、1846年（弘化３年、道光26年、尚育王19年）来琉したベッテルハイムにより仲地（当時、宇久、仲地紀晃家祖）紀仁が習得して施行したのと二つである」とある。ベッテルハイムは、プロテスタントの伝道者として来琉したが、医師でもあった。彼が持参した牛痘は善感（きれいに痘疱を形成すること）しなかったので、紀仁にひそかに教示し、牝牛の乳房にできた膿疱を探させた（当時、琉球政庁はベッテルハイムとの接触を人々に禁じていた）。なかなかみつからなかったが、ついに紀仁はそれを見い出し牛痘種痘を施行しはじめたのが、1848年から1850年頃と考えられている（金城清松）。なお、琉球政府は仲地紀仁を描いた牛痘実施120周年記念切手を1968年に発行しており、これは1848年説を採用していることになる。

「琉球の種痘」は、前述のように1963年の発行であり、未だ天然痘根絶の記載はない。勿論、米軍占領下の時代である。出版許可が昭和37年６月８日に得られたことが記されており、当時の状況を我々に思い起こさせる。沖縄戦により貴重な資料は焼かれ、なにもかもが困難な時代であったろう。しかも清松先生の80才を超えてからのお仕事であり、明治人のすごさを見る思いがする。脱帽して、金城清松先生の偉業を賛えたい。

（「琉球の種痘」は故金城清勝名誉教授のご厚志により、琉球大学図書館と同医学部分館に寄贈されています。）

（ふくなが　としひこ：ウイルス学教授）

「琉球の種痘」の請求記号は

中央館（千原）	医学部分館（上原）
K491. 8 K i 45	WC588

どうぞご利用ください。

本学教官著作寄贈図書案内

1998年２月～1998年４月

高良倉吉（法文学部）

沖縄の自己検証：鼎談・「情念」から「論理」へ／真栄城守定，牧野浩隆，高良倉吉著　那覇：ひるぎ社，1998.2（おきなわ文庫，83）　K312-MA

大城常夫（法文学部）

沖縄・自立への設計：南方圏の時代に向けて／宮城辰男編　東京：同文館出版，1997.11　K601-MI

屋我嗣良（農学部）

保存・耐久性／屋我嗣良，河内進策，今村祐嗣編　大津：海青社，1997.3（木材科学講座，12）　K657.08-MO

福永利彦（医学部）

琉球大学高学年次総合科目講座／福永利彦編　西原町（沖縄県）：琉球大学教育センター，1997.5　K404-FU

注）各資料末尾の記号は請求記号です。

ライブラリー・ワークショップ・プログラム

（図書館　定期開催版）

日程の変更など最新情報は
ホームページ http://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/で再確認！

参加申し込み　附属図書館電子情報係（図書館本館３階　内線：千原2207、8167）
資料や端末の用意があるため、参加申し込みを行ってください。

図書館では、様々な資料を使って情報を収集する方法について以下のようなワークショップを行っています。

★ 図書館ツアー

内容：いつも同じ書架に行って資料を探しているあなた、本当に必要なものとめぐり会えていますか？他の図書館の資料は使えない、手続きが面倒とあきらめてしまっていませんか？このツアーは、**あなたが必要な資料に効率よくアクセスできるよう**、あなたの利用を待っている資料群を紹介し、また以外と簡単に他の図書館の資料も利用できますのでその方法もお教えします。

★ 図書館利用法

場所：附属図書館本館（千原）２階　視聴覚室

内容：情報を得るためのツールはコンピュータだけではありません。図書館のレファレンスコレクション（参考資料群）を利用すると、かなり古い過去にさかのぼって文献を検索したり、テーマの周辺領域を拾い読みすることができます。これは**プリントされた資料ならではの技です。**この講習会では、レファレンスコレクションに関する知識や利用法についてお教えします。

★ 図書館における電子メディア利用のためのパソコン基礎講座

場所：附属図書館本館（千原）２階 情報検索コーナー

内容：この講座は、コンピュータはほとんど利用したことがない「機械は苦手」という方のために開講しています。**図書館の電子メディアを利用するため**のごく基礎的な知識を身につけることを目的とし、この講座の姉妹編である**「レポート・論文作成のための電子メディア活用講座」への基礎固め**としてもご活用ください。この講座では以下のことを取り上げます。

1．琉大図書館蔵書検索システム（ＯＰＡＣ）入門
2．図書館ホームページの紹介
3．情報の保存方法（フロッピーディスクの活用について）

★ レポート・論文作成のための電子メディア活用講座

場所：附属図書館本館（千原）2階 情報検索コーナー
　　医学部分館 1階 情報検索コーナー

内容：電子メディアを駆使して、情報を効率よく入手する方法をお教えします。何度でも受講可能です。

1．琉大図書館の蔵書を検索：蔵書検索システムＯＰＡＣの使い方
2．全国規模で資料の所在情報を検索：目録所在情報システムWebcatの使い方
3．論文単位で文献情報を検索：ＣＤ－ＲＯＭデータベースの使い方

＝ＣＤ－ＲＯＭデータベース＝

人文・社会系

- Arts & Humanities Science Citation Index
- Social Sciences Citation Index
- ABI/Inform select(経済・経営系)

学際領域、及び複数分野

- PsycLIT(心理学)
- 雑誌記事索引（主に日本語文献、全分野）
- Current Contents (on Diskette)
  （社会・自然・医学・技術系）

図書出版情報

- Global Books in Print

自然・医学・技術系

- Science Citation Index
- MEDLINE（医学関連）
- Biological Abstracts
- Biological Abstracts/RRM
- 医学中央雑誌
- CA on CD(Chemical Abstracts)
- INSPEC（工学関連）

＜授業でもご活用ください＞

授業やゼミの中でこのワークショップを取り入れていただくことも可能です。授業の目的に応じた内容で提供いたします。また開催時間もご都合に応じて調整可能です。ぜひ係までお気軽にご相談ください。

CA on CD(Chemical Abstracts CD-ROM版)の利用説明会開催される

附属図書館では、平成10年5月29日午後1時30分より、図書館多目的ホールにおいて、CA on CD（Chemical Abstracts CD-ROM版）の利用説明会が開催されました。

当日は（社）化学情報協会からインストラクターを招き、デモンストレーション及び、データベース利活用の説明を行いました。

説明会には学生・教官合わせて50人余りが参加し、予定時間終了後にも熱心な質問が相次いで出され、盛況な説明会となりました。

CA on CDとは化学分野を中心とした著名な学術文献情報のデータベースであり、雑誌論文だけでなく特許情報等も含まれていて、世界中の研究者から頻繁に利用されているものです。琉球大学では1997年版までは印刷された形態でのChemical Abstractsの提供でしたが、1998年版から CD-ROM 版に切り替えることになり、今後は検索端末による情報提供のみになります。

なお、この説明会の内容については、図書館で定期的に開催している「Library Workshop Program」の中で、実習を加えた形式の講習会として今後も継続して行っていく予定です。

これから CA on CD の利用を予定されている方は、是非この講習会をご利用ください。

琉球大学附属図書館のあゆみ　－シリーズ③－

豊　平　朝　美

発展期（1960年代②）

◎布令大学から政府立大学へ

琉球大学20年誌によると、1950年開学を目指して琉球大学の創設を推進した米軍政府は、1949年10月19日琉球列島米国軍政本部指令第22号（琉球の教育制度）を公布して、軍政府情報教育部が琉球大学を所管することを明らかにした。開学当初の１年間は本学の正式な管理機関もなく、その根拠となる法令も制定されていなかった。1951年１月10日民政府布告30号で琉球大学基本法の制定と大学理事会が設置され、管理運営が明確になった。1952年２月28日の布令66号で琉球教育法が発布され、第14章の琉球大学で琉球大学の基本法が整備された。さらに大学の民立法化を求め、大学の自治を明確にするため学内で研究と準備が進められ、琉大法案ができた。1965年琉大二法(琉球大学設置法・管理法)案が行政主席により立法院で立法勧告され、同年7月に可決され、1966年７月１日から施行されることになった。これによって米軍の布令立大学から民立法による琉球政府立大学になった。その際、図書館の司書職は人事院の査定により図書館管理職になりその他の職員は従来通り一般事務職となった。図書館の資料費もこれまでの米国民政府援助金及び布令大学時代の予算から1966年度以降琉球政府の予算により運営され、同時に日本政府より日政援助といわれた資金援助が開始され、蔵書の充実がはかられた。

◎参考司書の設置

図書館年報1966年度によると、1964年（昭和39）10月１日より組織機構改革により図書館サービスを強化するため参考司書が設けられた。参考司書に３名を配置したが、それ以前は参考調査業務は閲覧係で行われていた。1966年６月に参考司書を館長直轄にして、参考業務、情報管理業務を強化することになった。参考司書は図書館資料の収集計画、郷土資料等特殊書誌の作成、郷土関係資料の複写計画、図書館教育、主題別分野の調査研究、図書館相互利用、参考質問の回答、参考文献に関する情報調査を行っていた。国立移行後は参考調査係に改組され定員２名になり沖縄関係資料の収集に重点を置くとともに参考業務を行ってきた。

◎図書館建設研究委員会の発足

山田勉氏（当時委員会書記）の図書館建設研究委員会の報告によると以下の通りである。

志喜屋記念図書館は蔵書量の増加のため、収容能力が限界にきつつあるため、当初増築問題が提起されたが大学の発展と図書館の将来像を考え合わせ、増築よりも図書館新築が望ましいということになり、1964年８月24日、図書館長より図書館新築についての要請書が学長へ提出されたとなっている。11月20日に教官５名と図書館から１名が委員（図書館の委員は当初参考司書の石川氏であったが、1966年に平良事務長に交代）として、さらに1967年に山田勉氏が書記として委嘱を受け、委員会も「図書館建設研究委員会」となった。1966年11月25日に委員会を開催し、安谷屋正義教授(当時文理学部教授)が委員長として選出され、学長より下記について諮問を受けた。

①学生数4,000名としての図書館の規模及び設置場所について　②平面計画についての研究討議に入った。この間大学において総合敷地移転問題がおこり、敷地決定が先決であることから1965年２月24日、学長宛に「図書館建設計画における敷地場所に関する建議」を行った。その後、キャンパス問題がまだ解決をみていないため、図書館建設場所も結論が出ていないまま、いづれは十分な敷地が確保できるという想定のもとに18回の審議を重ね、1967年５月15日に図書館建設研究委員会より安里源秀学長宛答申し、1970年４月21日同委員会は解散した。

基本構想によると図書館は単に教官、学生の研究、学習の場だけでなく、20年～25年後の需要にこたえる構想をもつべきもので、且つ沖縄における図書館センターとしての性格をもつべきであるということであった。

その内容は20年～25年後は蔵書は倍になるという観点でその状況に対応できる計画を考慮し、蔵書数を50万冊とし、総坪数5,733坪（18,953㎡）で、地下1階、地上3階（一部4層の積層）の壮大な計画となっている。さらに将来の構想の中に分館、分室を考慮することが記されている。開架式を原則として、「教育学部門」「人文科学部門」等と階層毎の主題別になっている。以下省略

以上が報告の概略であるが、その後、1970年6月20日の琉球大学基本構想について第6章「図書館及びその他附属施設の図書館」に関する構想を踏まえつつ、昭和52年（1977）5月6日に「大学改革委員会への諮問事項について」として附属図書館長より学長宛諮問を依頼している。それによると学生数5,000人、蔵書数35万冊収納可能の地下1階、地上3階とし、総面積4,985㎡とした現在の千原キャンパスの旧館（6,134㎡）よりやや小さい。その後学内のマスタープラン委員会に委任され、面積において文部省基準の資格面積5,440㎡と制限されている。（図書館年報1967，昭和52年度参照）

昭和53年度年報によると、琉球大学改革委員会は昭和51年5月15日付学長から諮問された移転統合地における附属図書館の在り方についての最終答申を昭和54年2月16日に学長へ報告したとなっている。

◎図書館建築研究委員会の発足

一方、附属図書館でも新キャンパスへの移転に際しての図書館建築を研究させるために、図書館建築研究委員会を設けることになり館員の中から委員4人（山田勉、松島寛正、仲西盛秀、平陽子の各氏）を割り当て、昭和49年9月3日、第1回の図書館建築研究委員会を開催、図書館建築の基本方針について討議した。委員会は先ず資料の収集を図り、何回も平面図作成を試みた。昭和53年5月26日、3年以上に亘って収集した資料を踏まえて、「図書館建築の基本方針－試案－」を作成して、館長に報告し、同月30日に「図書館建築設計資料」として、図書館事務長より施設部企画課長へ手渡された。

［郷土資料収集］

◎奥里文庫の入手について

奥里将建氏所蔵の図書を神戸在住の千鶴子夫人の御芳志により1965年12月24日付書簡で琉球大学へ譲渡の意向が伝えられた。

泉鏡花作「婦系図」の自筆原稿

＊奥里将建氏は方言・国語学者、沖縄研究者で同氏は1888（明治21）年5月18日、沖縄県宜野湾間切（おきなわけん・ぎのわん・まぎり）に生まれ、検定試験で高等教員の免許を取り、後に京都大学国文選科で半年ほど学んだ。1908（明治41）年宜野湾小学校を振り出しに沖縄県内の各小学校や県立中学校で教鞭をとり1929（昭和4）年からは、神戸で教員を勤めた。最初は、古事記・万葉といった上代語の研究が中心であったが、院政～室町、琉球方言から四国・近畿方言と領域を広げる。（野原三義氏執筆：沖縄大百科事典より引用）

蔵書の内容は国文学関係（2,240冊）、万葉集関係（117冊）、方言学関係（170冊）、計2,527冊であった。その他に千鶴子夫人のご意向で色紙、短冊、泉鏡花の婦系図の自筆原稿等（第6編の4枚）が寄贈された。同氏所蔵の図書の中には沖縄関係資料173冊があったが、琉球政府文教局教育研究課県史編纂委員会事務局（名嘉正八郎氏）が入手（840ドル：302,400円）した。

同図書の入手にあたって、文理学部国語国文

学科教官で図書評価を行い、図書館側も参加して、検討した結果、3,500ドル（126万円）で決定、夫人に提示したところ、その承諾を得て、譲渡がきまった。その受取りのため、図書館職員（受入管理係長山田勉氏）が派遣され、その旅費はアジア財団が負担した。

◎伊波普猷先生の御墓と顕彰碑建立の寄付金募金について

びぶりお前々号の117号でも記載した通り、ロックフェラー財団の援助により伊波普猷の蔵書が1955年（昭和30年）に当館に譲渡された。冬子夫人のご厚意と仲宗根政善館長（当時）のご尽力で実現したわけであるが、当館では伊波普猷文庫として保存し、これまで内外の利用に供してきた。譲渡された170点近い資料には「屋嘉比工工四」（18世紀の琉球三味線音楽の祖;屋嘉比朝寄の楽譜で沖縄県重要文化財）や田島本おもろさうし等の他、貴重な資料が多数ある。そこで伊波文庫に関係する伊波普猷とはどんな人か本学にも寄せられた「伊波普猷の御墓と顕彰碑建立の寄付金募金」の趣意書から触れてみたい。昭和35年に伊波普猷の14年忌（昭和22年8月13日に72歳で死去）にあたり、伊波普猷先生顕彰会がお墓と顕彰碑建立のため下記の趣意書のちらしのとおり募金運動を始めた。

「伊波普猷先生とはどんな方でしょうか：先生の御墓と顕彰碑建立について」

伊波普猷は明治9年2月那覇の西村に生まれ、師範学校附属小学校から沖縄中学校、京都第三高等学校に進んだ後、東京帝国大学言語学科を明治31年に卒業した。沖縄最初の文学士であり、伊波文学士の通称で人々から親しまれた。明治43年に沖縄県立図書館が創設されたあと、初代館長（嘱託）に任命された。先生は学的良心を貫かれ、貴重な郷土文献を数多く集めて図書館の充実発展に努められた。同館はやがて全国に誇る有数な郷土図書館になり、内外の学者の学術研究の宝庫になった。先生はその間、琉球の言語、歴史、民俗の研究を深められた。研究の成果は次々と発表され、また、社会の啓蒙にも乗り出した。長い間、日支両属で民族的自覚を失い、大正八・九年の頃は社会の因習を打破するため、「血液と文化の負債」と題して、沖縄全島津々浦々を回って、沖縄方言による＊衛生講演を行った。方言による名講演であり、その回数は実に360余回にわたったと云われている。先生はキリスト教を信じ、その布教にもつとめ、民衆を教化した。大正13年「校訂おもろさうし」の原稿をたずさえて上京、図書館長を辞しておもろさうしの研究に専念した。戦後、沖縄人連盟の初代会長に推されて県人のために活躍された。伊波先生は我が郷土の生んだもっとも偉大な郷土研究家であった。全生涯を郷土の言語、歴史、民俗の研究に捧げられ、特におもろそうしの研究に最も大きな功績を残した。「古琉球」、「おもろさうし解釈」、「琉球古今記」、「南島方言史考」他20余冊の単行本を著し、その論文は300余篇に及びすべて先人未開拓の分野を究明され、独創卓見にみち、その学問的功業は永久に残り、光を放つものである。一度、先生に接したものは終生忘れることの出来ない深い印象を受け、親しみを覚えた。キリスト教を信じ、人を愛し、郷土を熱愛する至情がほとばしっているからである。自から物外居士と称し、物には極めて恬淡であり、ひたすら研究に全精力を傾注した。今年は14年忌にあたり、先生の御霊を故山に迎えたい。浦添城址はかつて伊波普猷が「浦添考」を書いて、その歴史を明らかにしたゆかりの地で、城址の南面からはるかに首里、那覇を展望し、慶良間の島影の見える景勝の地点に伊波普猷のお墓と顕彰碑を建立し、永く先生の遺徳を偲び業績をたたえたい。

＊民族衛生講話のことで伊波普猷が大正8年（1919）以降沖縄各地で一般民衆を対象に行なった講演。「血液と文化の負債」と題した講話は、民衆に正しい衛生思想・遺伝思想を普及し、その資質の向上をめざす人間改造の思想運動であった。村落共同体の壁を打破し、自覚した自由な結婚の奨励を通じて血族結婚のような悪習を追放し、民衆を遺伝的な悪素質から解放することを意図したものであった。民衆の生活感情に密着した方言を駆使してなされ、名講演として深い感銘を与えた

（『沖縄大百科事典』比屋根照夫氏執筆より引用）。

当時学校で標準語教育が、一環して焦眉の急とされ、罰則としての方言札まで出現している折にも拘らず、民族衛生講演における啓蒙活動は伊波の方言使用と密接に関っていた。（鹿野政直著『沖縄の淵』参照）

以上が趣意書の概略であるが、伊波普猷の人となりを彷彿させる。平成9年に沖縄タイムス紙に連載された「人間・普猷」の21号によると、お墓を造るにあたり、1959年3月に有志らで「伊波普猷先生顕彰」発起人会を組織、県内の小中高を含む県民の他、県外からは東京、関西、九州、ハワイ等から寄付金を募り、1961年8月14日の沖縄タイムスでは総額3,878ドル32セント（139万6千195円）が集まったという。募金は本学にも呼びかけられた。生前普猷が「私の眠る場所は那覇の街が一望でき、東シナ海と慶良間列島の見えるところ」という普猷の願いをかなえるため、顕彰会有志が浦添村と交渉した結果、伊波霊園は浦添城跡入口からわずかに入った南側に建立された。普猷が＊「浦添考」を著わし、その歴史をあきらかにしたことにより地元浦添が「浦添ゆかりの人」として「沖縄学の父」伊波普猷を受け入れたのが同地に建立できた大きな理由だったと記載されている。伊波霊園は欝蒼とした茂みの坂を登った中腹あたりから脇道に入り、その奥まったところにある。お墓の入口右側に顕彰碑があり、その碑におもろと沖縄学の父伊波普猷とあり、「彼ほど沖縄を識った人はいない」から始まる東恩納寛淳の撰文がある。閑散とした静かな霊園の周りは木々が茂み、今はここから普猷の古里那覇の街を展望しにくくしている。

伊波霊園案内版

＊浦添は首里城遷都以前に三代の王統の王城のあったゆかりの地であった。

◎沖縄史料編集所の本館所蔵資料の複写

1968年3月26日から10日間にわたって沖縄史料編集所が当館所蔵資料をマイクフイルムに複製した。複製内容は伊波普猷文庫、島袋源七文庫、宮良殿内文庫、Bull文庫、仲原善忠文庫、その他一般郷土資料など約300点の資料である（1968年度図書館年報より）。当館も沖縄史料編集所蔵の復帰運動関係史料や、昭和18年の裁判訴訟資料等を複製し、県内の関係機関は相互に協力して、沖縄関係資料の収集を図ってきた。

充実期（1970年代）

本土復帰を目前に琉球大学の国立移行のための準備や職員の資質向上のために研修が実施された。その一環として他大学へ講師の派遣を依頼して、慶応義塾大学より津田教授、東大附属図書館より松田館長、田辺、黒住、柿沼の各氏が相次いで来館、大学図書館における文献探索、書誌サービス、外国の図書館事情、図書館電算化業務に関する講演等を行い、多くの示唆と感銘を与えた。又、会計処理についても琉球政府時代と会計法の異なる国立大学の会計事務を円滑に進めるため、国立移管直後の昭和48年に1月22日から2月18日まで約1ケ月近く、宮崎大学より職員（用度係山下富重氏）が本学図書館に派遣された。沖縄関係資料については戦後資料を含めた収集が行われ、その戦後資料については学内に琉球大学戦後資料収集調査委員会が学長のもとに設置され、戦後沖縄に創設された米国民政府の文書等資料の収集を開始した。図書費については、本土復帰前の日本政府の日政援助から国立移管後は文部省により本土国立大学との蔵書の格差を是正するために昭和47年度より格差是正費（年間6,000万円）の援助が開始され、

伊波普猷顕彰碑

昭和51年度まで5カ年継続した。

この格差是正費で特に雑誌のバックナンバーが重点的に整備され、6,000万円のうち、昭和47、48年度は各年2,000万円づつ、昭和49年から51年までの3ケ年は各年倍額の4,000万円が充当され、5ケ年の総額は1億6,473万円で1,049タイトル15ケ年分の雑誌のバックナンバーを購入した。資料費全体としては格差是正費を配分した昭和47年から最終の昭和51年度までは順調に伸び、その配分額は国立大学の平均に近く、国立移行以前とは比較にならないほど充実がはかられた。昭和52年度以降は格差是正費の消滅に伴い、学生用図書費として1,500万円の学内配分と文部省より沖縄関係資料収集費と自然科学系外国雑誌購入費の特別配分があり、配分額の変更はあるものの継続されたが国立他大学との格差が広がっていった。その他、地域との密接な連携を図るために結成された全沖縄大学図書館協議会が発足した。

図書館資料費の推移

年度	琉球大学	国立大学平均
昭和47	104,822,103円	86,683,000円
昭和48	99,220,683	91,771,000
49	106,317,215	104,811,000
50	120,817,337	120,679,000
51	127,440,430	130,530,000
52	104,620,112	142,222,000
53	103,595,056	160,875,000
54	128,043,508	166,468,000
55	147,880,818	188,718,000
56	153,487,680	204,420,000

注：琉球大学の資料費は「図書館年報」、国立大学は「文部省大学図書館実態調査結果報告」より参照

◎事務組織改正

国立大学への移行に伴い、参考調査係、図書係（保健学部図書室）が新設され、従来の受入管理係、整理係、閲覧係に加えて、5係となった。それに先だって、保健学部に図書室が設置された。1970年10月に保健学部ビルにおいて専門課程の講義が行われ、図書室も標本室を転用して開室した。閲覧席は12席あり、職員は2人（内1人は非常勤）であった。図書費は日本政府援助で賄われた。

◎夜間開館時間の1時間延長

1970学年後期において、短大部学生と学長との団交の結果、テストケースとして従来の午後9時から1時間延長して午後10時まで夜間開館を行うことになった。一学期間行ってみた結果、試験期については予算面での保障さえ確保できれば考慮の余地もあるとしながらも、延長した割には入館者が少ない等利用面での効果、予算上の問題、カウンター勤務の職員の保健上の問題（当時は職員2人で午後5時からの超過勤務として当番制で勤務した）等があるとして、再び通常の午後9時に戻した。（図書館年報1970-71年度参照）

◎全沖縄大学図書館協議会結成大会

『琉球大学三十年誌』によると国立移管を前に、中央図書館制度の維持確立のため、図書館運営の基本方針の確認や図書館相互協力活動の制度化を諮った。特に国立大学図書館協議会や地方ブロック協議会などを参考に将来、中央と密接な関係を想定すると沖縄においても大学図書館協議会の結成の必要性があった。このため、本学より他の私立大学に趣意書を送付して、全沖縄大学図書館協議会の創設の重要性を説き、本学の長浜館長を中心に結成準備会が発足し、1970年11月7日琉球大学附属図書館（志喜屋記念図書館）4階において設立総会が開催され、正式に結成された。

昭和49年度図書館年報によると、その目的は会則第2条に「大学図書館共通問題を研究協議し、その健全な発展を期すること」で、その目的達成のために、1.大学図書館の連絡提携 2.大学図書館の調査研究 3. 研究集会、講習会、講演会、展示会 4.会誌の発行の事業を行うこととなっている。復帰後は沖縄県大学図書館協議会（略称：県大図協）と改称された。本学図書館が幹事館になり、沖縄大学、国際大学（沖縄大学の一部教職員、学生と合併後に現在の沖縄国際大学に名称変更）、沖縄キリスト教短期大学、沖縄女子短期大学など当初5校で構成したが、現在は、沖縄県立芸術大学、名桜大学が加

わり、7校が当番校を持ち回りして、年1回の総会と各大学選出の企画委員を中心に講演会・研修会開催など行っている。会員相互も緊密な関係を維持しており、資料の貸出など相互協力も行っているが会誌の発行は現在に至るまで実現していない（『沖縄の図書館沿革小史』一部参照）。　　つづく

（とよひら　ともみ　：　図書館専門員）

留学生コーナーをリニューアル！
－「海外衛星放送受信システム」等の導入－

このたび附属図書館3階の留学生コーナーに、
(1)「琉球大学学術情報資料提供システム」
(2)「海外衛星放送受信システム」
(3)「外国新聞リーダー端末装置」
が整備されました。これらの装置の概要は、以下のとおりです。

(1) 琉球大学学術情報資料提供システム

桂学長の発案によるもので、地域に開かれた大学を目指すことを目的に、学内で収集・生産・蓄積された学術的価値の高い資料を電子化して、インターネット上で公開するシステムです。今回提供される内容は、大正期に沖縄に滞在した宣教師ブール師が撮った沖縄の生活風俗を中心とした写真集、琉球王府時代の八重山の行政文書集である宮良殿内文庫（みやらどぅんちぶんこ）などです。3階の留学生コーナーに設置した端末は、指で直接画面をタッチすることにより簡単に操作ができ、小中高校生を始めとして、広く地域一般の人々の利用を考慮したものとなっています。

(2) 海外衛星放送受信システム

赤道上空36,000キロメートルの放送衛星からの電波を6基の大型パラボラアンテナで受信し、6台のモニターに映し出すシステムであり、アジアを中心とした30ヶ国以上（100チャンネル以上）の放送が受信できます。留学生は、このシステムにより、直接母国の情報にふれることによって、外国での生活に安心感を持つことができます。また、一般学生にとっては、諸外国の文化の理解、語学学習等に大きな効果が期待できます。このシステムは国立大学では最も大きな規模のものです。モニターの近くにリモコンと専用ヘッドホンが置いてありますので自由にご利用ください。

(3) 外国新聞リーダー端末装置

インターネットで世界各国の電子新聞を自由に読める装置で、2台設置されています。この装置の特色は外国語の文字フォントを内蔵しているため、中国語、韓国語等をそのまま表示できるところにあります。

書籍等の印刷メディア、衛星からの生の映像メディア、インターネットによる電子情報メディアの三者が相まって、琉球大学における情報利用環境が格段に向上することと思います。

附属図書館に研究開発室を設置

附属図書館では、平成10年4月1日付けで図書館内に研究開発室を設置しました。この研究開発室は、図書館サービスを高度化するために下記の事項に関して、研究及び開発を行います。

(1) 電子図書館に関すること。
(2) 沖縄学総合データベースに関すること。
(3) 貴重図書及びこれに類する図書館資料の保存及び公開に関すること。

附属図書館では、平成8年度に電子図書館機能検討委員会を設置し、電子図書館的機能を備えた図書館情報システムの構築計画を策定し、以来それに関わる種々の計画実現のため努力しております。

研究開発室の設置は、これらの電子図書館的サービスを始めとした図書館サービスの高度化のための研究開発を推進するには、研究者の力が必要だとして、その設置が計画にあがっていたものですが、手続きを終え、いよいよ本年度開室の運びとなったものです。

室長は図書館長があたり、本年度の研究開発室室員には、図書館運営委員会で推薦された、教育学部の名嘉順一教授、工学部の高良富夫教授、法文学部の狩俣繁久助教授の3名の先生方が委嘱されました。

去る6月4日に第1回の研究開発室会議を開催し、本年度の事業計画の協議を行い、活動を開始しました。

本年度の事業は、平成10年度の科学研究費補助金「研究成果公開促進費」で申請した「琉球語音声データベース作成」を行なうことになってます。

平成10年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費」申請、内定される

（琉球語音声データベース作成）

「附属図書館琉球語音声データベース作成委員会」から申請していた「琉球語音声データベース作成計画」（平成10年度科学研究費補助金－研究成果公開促進費－）が、このたび交付内定を受けました。

本計画は話者の高齢化に伴い、その存続が危ぶまれている琉球方言の音声データベースを作成するものです。琉球方言は日本語の起源を探る上で重要な言語として、全国の言語学者、方言学者から注目されております。この計画が実現すれば、言語学研究に役立つことは勿論、日本語諸方言を含む世界各地の消滅の危機に瀕する言語の記録保存及びその利用方法等に関するモデルとなるものと期待されています。

今回計画されている「琉球語音声データベース作成」は、沖縄県の人口の約90%を占める沖縄本島の中南部方言と北部方言の文字及び音声のデータベースを作ろうとするものです。このデータベース作成事業は、3ヶ年計画で行う予定です。

事業内容は、首里士族の方言を記録した「沖縄語辞典」と、首里と対立していた北山の居城今帰仁城のあった地域の方言を記録した「沖縄今帰仁方言辞典」の文字情報と、音声情報をリンクしたデータベースを作成し、インターネット等を通して、研究者・一般利用者へ提供するものです。

本年度は、この事業計画の初年度に当たり、①「沖縄今帰仁方言辞典」（冊子体）の文字データのテキスト入力、②この文字データとリンクさせるための、既に録音済みの「沖縄今帰仁方言辞典」の音声データの切り出し・抽出、③「沖縄語辞典」の音声録音、④テキスト・データと音声データをリンクさせるための仮データベースのフォーマット変換等の作業を行うことになっています。

この事業は、研究開発室の第1号事業として進められることになります。

沖縄関係資料新着案内

1998年2月～1998年4月

0類　総　　記

1．沖縄県立図書館本館所蔵特殊文庫目録，郷土資料編／沖縄県立図書館編　那覇：沖縄県立図書館，1997.3　K029.3-OK

2．鹿児島大学附属図書館所蔵玉里文庫等善本図録／鹿児島大学附属図書館編　鹿児島：鹿児島大学附属図書館，1997.3　K029.6-KA

3．竜宮の謎：The Eniguma of The Ryukyu／谷口光利著　東京：たま出版，1997.8　K049-TA

4．壺屋焼物博物館常設展ガイドブック／那覇市立壺屋焼物博物館編　那覇：[那覇市立壺屋焼物博物館]，1998.2　K069-NA

5．戦争とジャーナリズム，続／茶本繁正著　東京：三一書房，1989.1　K070.21-CH

1類　哲　　学

1．浄霊と薬害／宮城功光著　名護：沖縄神霊治療研究会，1997.12（超公術，6）K147.3-MI

2．うりずんの星：那覇教区創立50周年・那覇司教区設立25周年記念誌／[カトリック那覇教区] 記念誌編集委員会編　那覇：那覇教区創立50周年・那覇司教区設立25周年記念事業実行委員会，1997.12　K198.2-KA

2類　歴　　史

1．考古資料より見た沖縄の鉄器文化／沖縄県立博物館編　那覇：沖縄県立博物館，1997. 3　K200.2-OK

2．近世沖縄の素顔／田名真之著　那覇：ひるぎ社，1998.3（おきなわ文庫，84）K200.4-DA

3．仲原善忠先生顕彰記念誌／仲原善忠先生顕彰記念誌編集委員会編　仲里村（沖縄県）；仲原善忠先生顕彰事業期成会，1997.12　K200.4-NA

4．Sources of Ryūkyūan history and culture in European collections／Josef Kreiner (ed.) München : Iudicium, 1996 (Monographien aus dem Deutschen Institut für Japanstudien der Philipp-Franz-von-Siebold-Stiftung, Bd.13)　K201-KR

5．陶磁器に見る大交易時代の沖縄とアジア：那覇市立壺屋焼物博物館開館記念／那覇市立壺屋焼物博物館編　那覇：沖縄県那覇市教育委員会，1998.2　K201.18-NA

6．Killing ground on Okinawa : the battle for Sugar Loaf Hill／James H. Hallas Westport, Conn. : Praeger, 1996　K201.7-HA

7．終戦後の沖縄文化行政史／川平朝申著　那覇：月刊沖縄社，1997.11　K201.7-KA

8．沖縄復帰物語：平和・戦争・占領・返還：1945年-1972年／ゴードン・ワーナー［著］；エグゼカティブ・リンク訳　[与那原町（沖縄県）]：[ゴードン・ワーナー]，c1995　K201.7-WA

9．The Okinawan reversion story : war, peace, occupation, reversion 1945-1972／Gordon Warner Naha, Japan : Executive Link, c1995　K201.7-WA

10. 字誌辺野喜／「字誌辺野喜」編集委員会編　国頭村（沖縄県）：国頭村辺野喜区，1998.1　K211-AZ

11. 名護・やんばるの戦争：極限の人びと：企画展13／名護博物館編　名護：名護博物館，1995.8　K215-NA

12. ふるさと泡瀬：写真集／泡瀬復興期成会編　沖縄：泡瀬復興期成会，1997.10　K225-AW

13. 沖縄・国際通り物語：「奇跡」と呼ばれた一マイル／大浜聡著　具志川:ゆい出版，1998. 1　K231-OH

14. 慶来慶田城由来記；富川親方八重山島諸締帳／石垣市総務部市史編集室編　石垣：石垣市役所，1991.3（石垣市史叢書，1）　K251-IS

15. 与世山親方八重山島規模帳／石垣市総務部市史編集室編　石垣：石垣市役所，1992.3（石垣市史叢書，2）　K251-IS

16. 進貢・接貢船、唐人通船、朝鮮人乗船、日本他領人乗船、各漂着并破船之時、八重山島在番役々勤職帳；写（異国船で来琉の日本人の上陸について）；異国人江返答之心得／石

垣市総務部市史編集室編　石垣：石垣市役所，1993.3（石垣市史叢書，4）　K251-IS

17. 翁長親方・富川親方、両八重山島蔵元公事帳／石垣市総務部市史編集室編　石垣：石垣市役所，1993.3（石垣市史叢書，5）　K251-IS

18. 山陽姓大宗系図家譜；上官姓大宗系図家譜；長栄姓小宗系図家譜；錦芳姓小宗系図家譜／石垣市総務部市史編集室編　石垣：石垣市役所，1994.3（石垣市史叢書，6）　K251-IS

19. 翁長親方八重山島規模帳／石垣市総務部市史編集室編　石垣：石垣市役所，1994.3（石垣市史叢書，7）　K251-IS

20. 日記抜（蔵元日記）：廃藩置県時（明治十二年）の八重山／石垣市総務部市史編集室編　石垣：石垣市役所，1997.3（石垣市史叢書，10）　K251-IS

21. 戦争体験記録／竹富町史編集委員会編　石垣（沖縄県）：竹富町役場，1996.3（竹富町史，第12巻:資料編）　K253-TA

22. 記録写真集与那国：沈黙の怒涛どうなんの100年／与那国町史編纂委員会事務局編　与那国町(沖縄県)：与那国町役場，1997.12（与那国町史，別巻1）　K254-YO

23. 比嘉春潮：沖縄の歳月：自伝的回想から／比嘉春潮著　東京：日本図書センター，1997.12（人間の記録，46）　K289-HI

24. 三本の矢：國場三兄弟の奮闘／久高則夫編　那覇：セイケイ新聞社，[1990]　K289-KU

25. わが父・母・故郷，沖縄編／辻文章編　東京：文教図書出版，1997.11　K289-WA

26. ゼンリン住宅地図：沖縄県：浦添市，1998　北九州：ゼンリン，1998.2　K290.38-ZE

27. ゼンリン住宅地図：沖縄県：沖縄市･北谷町，1998　北九州：ゼンリン，1998.3　K290.38-ZE

28. じゃらんde沖縄：クチコミ1272，'97年-'98年保存版／じゃらん編集部編　東京：リクルート，1997.7（ニッポンお遊び探検隊シリーズ）　K290.9-JA

29. 沖縄・離島：自分で旅する人へ／実業之日本社編　東京：実業之日本社，1997.5（ブルーガイド・ムック．旅まる）　K290.9-JI

30. 沖縄で遊ぼ／JTB出版事業局編集四部編　東京：JTB，1997.6（JTBのmook．るるぶっく）　K290.9-JT

31. A voyage round the world in the years 1785, 1786, 1787 and 1788, v.1-v.3／by J. F, G. de la Pérouse ; ed. by M. L. A. Milet-Mureau　London : Printed by A. Hamilton, 1799　K290.9-PE

32. 風の地図：島尾伸三のアジア漫歩／島尾伸三著　東京：メタローグ，1997.9　K290.9-SH

33. Days in Vietnam=ベトナムでの日々／遠山光一郎著　那覇：ボーダーインク，1998.1　K290.9-TO

34. ペリー艦隊日本遠征記，I-III，収録海図／ペリー［著］；オフィス宮崎翻訳・構成 東京：栄光教育文化研究所，1997.10　K290.99-PE

35. 沖縄まちず／福岡人文社編　福岡：福岡人文社，1998.1　K291.99-OK

36. ラペルーズ世界周航記，日本近海編／小林忠雄編訳　東京：白水社，1988.2　K299.2-LA

3類　社会科学

1．私の沖縄／松堂あつお著　南風原町（沖縄）：松堂あつお，1997.12　K302-MA

2．沖縄からのメッセージ　那覇：沖縄県知事公室広報課，1997　K302-OK

3．激論・沖縄「独立」の可能性／「沖縄独立の可能性をめぐる激論会」実行委員会編　京都：紫翠会出版，1997.10　K302-OK

4．亜熱帯の宝島沖縄［映像資料］　那覇：琉球放送，1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」，第1回）　K302-OK

5．早春の翼［映像資料］　那覇：琉球放送，1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」，第2回）　K302-OK

6．私たちの信じるもの：糸満の門中墓［映像資料］　那覇：琉球放送，1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」，第3回）　K302-OK

7．大地に響く詩：踊る心・唄う心・島の心［映像資料］　那覇：琉球放送，1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」，第4回）　K302-OK

8．君が奏でる日［映像資料］　那覇：琉球放送，1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」，第5回）　K302-OK

9．お母さんありがとう：沖縄食卓物語［映像資料］　那覇：琉球放送，1997（おきでん百添

アワー「ウチナー紀聞」, 第6回） K302-OK
10. La Pasion：山原しげる：ゴーヤー to カチャーシー to フラメンコ［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第7回） K302-OK
11. 舞踊集団花やから：つぼみがひらく瞬間［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第8回） K302-OK
12. 闘牛のススメ［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第9回） K302-OK
13. ユッカヌヒー：懐かしい玩具と遊び［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第10回） K302-OK
14. 沖縄の絣織物［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第11回） K302-OK
15. 古今結婚：ニービチにまつわるエトセトラ［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第12回） K302-OK
16. 沖縄コミックカルチャー［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第13回） K302-OK
17. お気楽・食楽・買楽マチグゥワー［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第14回） K302-OK
18. 私は琉球人です：中国残留孤児、楊景新さんは訴える［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第15回） K302-OK
19. ウチナー口という生きもの：方言［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第16回） K302-OK
20. 沖縄の民話：先人からのメッセージ［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第17回） K302-OK
21. ヤンバルクイナに魅せられて［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第18回） K302-OK
22. 祭りの島沖縄［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第19回） K302-OK
23. 沖縄学の父・伊波普猷：沖縄よ何処へ［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第20回） K302-OK
24. 美・琉球舞踊［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第21回） K302-OK
25. ウチナーの定番メニュー沖縄そば［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第22回） K302-OK
26. ウチナークスイムンめぐり［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第23回） K302-OK
27. VIVA!!リサイクル［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第24回） K302-OK
28. 魚買ーンチョラニ？：糸満魚売りの歴史［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第25回） K302-OK
29. ロボット甲子園［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第26回） K302-OK
30. 喜劇の女王仲田幸子：涙あり、笑いありの芸暦50周年［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第27回） K302-OK
31.「快適」を求めて…：沖縄の気候について［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第28回） K302-OK
32. おいしく食べられたい by 豆腐［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第29回） K302-OK
33. ウチナー発明伝［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第30回） K302-OK
34. マチの匠のヒト：七つの思い［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第31回） K302-OK
35. ヤイマ：ヤファヤファと…島へ、母へ綴る唄［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第32回） K302-OK
36. 第6回交通遺児チャリティードライビング

ツアー'97［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第33回） K302-OK

37. 101回目の開会プレイボール九州地区高校野球大会［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第34回） K302-OK

38. 亜熱帯性周波数［映像資料］ 那覇：琉球放送, 1997（おきでん百添アワー「ウチナー紀聞」, 第35回） K302-OK

39. 三線の響く町から：大阪・大正区の沖縄人（ウチナーンチュ）［映像資料］ 那覇：よみうりテレビ, 1997（NNNドキュメント'97） K302-YO

40. 公文類聚目録, 第13／国立公文書館［編］ 東京：国立公文書館, 1997.3 K310.9-KO

41. 経済関係文書, 第1巻-第12巻／浅井良夫編 東京：柏書房, 1997.10（GHQトップ・シークレット文書集成, 第3期） K312-GH

42. 原爆と日本の科学技術関係文書, 第1巻-第11巻／安斎育郎編 東京：柏書房, 1998.2（GHQトップ・シークレット文書集成, 第4期） K312-GH

43. 国家公務員法／岡田彰編 東京：丸善, 1997.12（GHQ民政局資料「占領改革」, 第7巻） K312-GH

44. 沖縄の自己検証：鼎談・「情念」から「論理」へ／真栄城守定, 牧野浩隆, 高良倉吉著 那覇：ひるぎ社, 1998.2（おきなわ文庫, 83） K312-MA

45. 宮古行政史／沖縄県宮古支庁編 平良：沖縄県宮古支庁, 1997.12 K317.2-OK

46. 住民投票：20世紀末に芽生えた日本の新ルール／今井一編 大阪：日経大阪PR, 東京：日本経済新聞（発売), 1997.11 K318-IM

47. 議会の活動／具志川市議会事務局議会史編さん室編 具志川市：具志川市議会, 1997.10（具志川市議会史, 第3巻：資料編2） K318.4-GU

48. 検証・新ガイドライン安保体制／纐纈厚著 東京：インパクト出版会,［東京］：イザラ書房（発売), 1998.2 K319-KO

49. '96国際平和学シンポジウム報告集：戦争・民族紛争は何をもたらしたか ［宜野湾］：沖縄国際大学国際平和学シンポジウム実行委員会, 1997.3（国際平和学シンポジウム報告集, '96） K319-KO

50. 沖縄の米軍及び自衛隊基地（統計資料集), 平成10年3月／沖縄県総務部知事公室基地対策室［編］ 那覇：沖縄県総務部知事公室基地対策室, 1998.3 K319-OK

51. これが米軍への「思いやり予算」だ!：「日米安保」読本／派兵チェック編集委員会編 東京：社会評論社, 1997.10 K319.8-HA

52. 広島・沖縄平和のキャンパス感想文集／広島平和文化センター編 広島：広島平和文化センター, 1997.3 K319.8-HI

53. 沖縄に基地はいらない：元海兵隊員が本当の戦争を語る／アレン・ネルソン, 國弘正雄［著］ 東京：岩波書店, 1997.12（岩波ブックレット, No.444） K319.8-NE

54. 沖縄・読谷村の挑戦：米軍基地内に役場をつくった／山内徳信, 水島朝穂［著］ 東京：岩波書店, 1997.10（岩波ブックレット, No.438） K319.8-YA

55. 海と大地を守れ：沖縄・平和の願いは燃えて／芳澤弘明著 南風原町（沖縄県）：あけぼの出版, 1998.1 K319.8-YO

56. 憲法第九条の復権：沖縄・アジアの視点から考える／内田雅敏著 東京：樹花舎, 東京：星雲社（発売), 1998.1 K323.4-UC

57. 大店法の規制緩和に伴う中小小売商業実態調査報告書／沖縄県産業振興公社［編］［那覇］：［沖縄県産業振興公社], 1997.3 K335.35-OK

58. 私が技術一番さん：沖縄手づくりの味, II／農産漁村生活研究会著 浦添：沖縄出版, 1998.2 K365.6-OK

59. マイノリティとしての女性史／奥田暁子編 東京：三一書房, 1997.10（近代を読みかえる, 第1巻） K367-KI

60. 長寿の争奪：点検・老人デイケア／沖縄タイムス社編 那覇：沖縄タイムス社, 1998.3（沖縄タイムス・ブックレット, 2） K369.26-OK

61. 心病んでも：「あたりまえ」に向かって／山城紀子著 那覇：ニライ社, 山口：新日本教育図書（発売), 1998.3 K369.28-YA

62. アメリカンスクールに学ぶ／末吉節子著 [那覇]：末吉節子，南風原町（沖縄県）：那覇出版社（発売），1997.10 K372.53-SU
63. 記念誌「鴻雁」／[甲辰校同窓会] 記念誌編集委員会編 [出版地不明]：甲辰会同窓会，1997.11 K376.2-KO
64. 日本一をめざした日々：那覇市立石嶺中学校の挑戦／仲間一著 南風原町（沖縄県）：那覇出版社，1997.11 K376.3-NA
65. 戦時下の学園記：戦火をくぐって／県立第三高等女学校21期生編 [出版地不明]：なごらん同窓会・県立第三高等女学校21期生，1997.11 K376.7-OK
66. 創立百周年記念誌／首里高等女学校創立百周年記念事業編集部編 [那覇]：首里高等女学校創立百周年記念事業編集部，1996.12 K376.7-SH
67. 女性研究の展望と期待／沖縄国際大学公開講座委員会編 宜野湾：沖縄国際大学公開講座委員会，南風原町：那覇出版社（発売），1996.2（沖縄国際大学公開講座，3）K379.4-OK
68.「青」の民俗学：谷川健一の世界／岡谷公二，山下欣一編 東京：三一書房，1997.11 K380.1-OK
69. 南九州の庶民生活／村田熙著 東京：第一書房，1996.9（村田熙選集，3） K380.8-MU
70. 琉球弧の村落探求，1-20／仲松弥秀 [著] [出版地不明]：[出版社不明]，199- K382-NA
71. 沖縄の御願ことば辞典／高橋恵子著 那覇：ボーダーインク，1998.1 K385-TA
72. エイサー：沖縄の盆踊り／宜保栄治郎著 南風原町（沖縄県）：那覇出版社，1997.11 K385.7-GI
73. 沖縄の迷信大全集1041／むぎ社編集部編 中城村（沖縄県）：むぎ社，1998.2 K386-MU
74. 芸能の原風景：沖縄県竹富島の種子取祭台本集／全国竹富島文化協会編 藤沢：瑞木書房，1998.2 K386.8-ZE
75. 琉球列島<島うた>紀行，第2集：八重山諸島・宮古諸島／仲宗根幸市編著 那覇：琉球新報カルチャーセンター，那覇：琉球新報社（発売），1998.2 K388-NA
76.「しまうた」を追いかけて：琉球弧の民謡・フィールドワークとエッセイ／仲宗根幸市著 那覇：ボーダーインク，1998.3 K388-NA
77. 沖縄・糸満市の昔話／立命館大学説話文学研究会，糸満市教育委員会編 糸満市：糸満市教育委員会，1996.3 K388-RI
78. 奄美の「シマの歌」／中原ゆかり著 東京：弘文堂，1997.12 K388.9-NA
79. 宮古のフォークロア／ニコライ・A・ネフスキー著；リヂア・グロムコフスカヤ編；狩俣繁久 [ほか]共訳 東京：砂子屋書房，1998.2（弧琉球叢書，3） K388.94-NE
80. 社会福祉／菅沼隆解説・訳 東京：日本図書センター，1998.2（GHQ日本占領史，23） K391.4-GH
81. 公正取引の促進／宮島英昭解説；湯川順夫訳 東京：日本図書センター，1998.2（GHQ日本占領史，30） K391.4-GH
82. 労働条件／遠藤公嗣解説・訳 東京：日本図書センター，1998.2（GHQ日本占領史，32） K391.4-GH
83. 農業協同組合／合田公計解説・訳 東京：日本図書センター，1998.2（GHQ日本占領史，34） K391.4-GH
84. 価格・配給の安定：非食糧部門の計画／山崎勝解説・訳 東京：日本図書センター，1998.2（GHQ日本占領史，36） K391.4-GH
85. 不燃鉱業の復興／片山次男解説；湯川順夫訳 東京：日本図書センター，1998.2（GHQ日本占領史，44） K391.4-GH
86. 繊維工業／阿部武司解説・訳 東京：日本図書センター，1998.2（GHQ日本占領史，49） K391.4-GH
87. 沖縄対米請求権問題の記録／対米請求権記録誌編集委員会編 那覇：沖縄県対米請求権事業協会，1994.3 K395-OK
88. 対米協15年のあゆみ／沖縄県対米請求権事業協会編 那覇：沖縄県対米請求権事業協会，1997.3 K395-OK
89. 海上ヘリポート関連新聞集成：琉球新報・沖縄タイムス・宮古毎日・八重山日報・朝日新聞，1-3／名護市立崎山図書館編 名護：名護市立崎山図書館，1997.9-1997.10 K395.39-KA
90. 民意と決断：海上ヘリポート問題と名護市民投票／沖縄タイムス社編 那覇：沖縄タイムス社，1998.3（沖縄タイムス・ブックレッ

ト, 1) K395.39-OK

4類 自然科学

1．石にひかれて：噴火・地震から「どじょっこの唄」まで／加納博著 秋田：秋田文化出版, 1998.2 K450.4-KA
2．沖縄の気候解説：琉球列島の気候風土／沖縄気象台編 那覇：日本気象協会沖縄支部, 1998.1 K451.9-OK
3．海底のオーパーツ／南山宏編 東京：二見書房, 1997.7（サラ・ブックス） K455-MI
4．太平洋に沈んだ大陸：沖縄海底遺跡の謎を追う／木村政昭著 東京：第三文明社, 1997.11 K455.8-KI
5．沖縄やんばる・亜熱帯の森：この世界の宝をこわすな／平良克之写真・説明；伊藤嘉昭生物解説 東京：高文研, 1997.11 K462-TA
6．マルチメディア沖縄亜熱帯図鑑／湊和雄, 横塚眞己人著 東京：アスキー, 1997.11（CD-ROM & book. マルチメディア図鑑シリーズ） K462.19-MI
7．平田医師と永六輔の生きかた講座／平田亮一, 永六輔著 東京：三笠書房, 1997.12（知的生きかた文庫） K490.4-HI

5類 技術

1．沖縄の環境と平和：生命（いのち）の声：第十六回日本環境会議沖縄大会／日本環境会議沖縄大会実行委員会［編］ 那覇：日本環境会議沖縄大会実行委員会, 1997.7 K519-NI
2．たべる、おきなわ：本土でつくる沖縄の家庭料理／藤清光, 中山美鈴著 福岡：エリス, 1997.11 K596-TO
3．健康をつくる郷土料理：北海道から沖縄まで／石原明著 東京：健友館, 1992.6（家庭の医学シリーズ, 24） K596.21-IS

6類 産業

1．沖縄・自立への設計：南方圏の時代に向けて／宮城辰男編著 東京：同文館出版, 1997.11 K601-MI
2．地域振興と航空政策：モデルケースとしての沖縄／戸崎肇著 東京：芦書房, 1997.7 K601-TO
3．沖縄における東南アジア諸国との情報交流基礎調査報告書／沖縄開発庁沖縄総合事務局総務部調査企画課［編］［那覇］：沖縄開発庁沖縄総合事務局総務部調査企画課, 1988.3 K601.199-OK
4．戦前期の沖縄農地制度資料：沖縄県土地整理事業関係／沖縄農地制度資料集成編集委員会編 ［那覇］：沖縄県農林水産部, 1997.3 K611.2-OK
5．伊平屋村農業協同組合50年史伊平屋村（沖縄県）：伊平屋村農業協同組合, 1997.5 K611.6-IH
6．農連事件：混乱期の琉球：ヒューマンドキュメント／西原光雄著 那覇：琉球新報社, 1998.1 K611.6-NI
7．琉球弧の農耕文化／農耕文化研究振興会編 東京：大明堂, 1998.4（農耕の世界,その技術と文化, 5） K612.1-NO
8．沖縄全県FTZ（自由貿易地域）の挑戦：ポスト香港, アジアの小龍めざす／平野拓也著 東京：同文書院インターナショナル, 東京：同文書院（発売）, 1998.1 K678.1-HI

7類 芸術

1．城（ぐすく）が劇場になった：座喜味城跡活用実践集／読谷村教育委員会［編］［読谷村（沖縄県）］：読谷村教育委員会, 1997.3 K709-YO
2．彩：14年の足跡／新城俊子著 今帰仁村（沖縄県）：新城俊子, 1997.10 K720-SH
3．幸地学画集：絵画・彫刻・版画／幸地学［画］；画廊沖縄編 那覇：画廊沖縄, 1998.1 K723.1-KO
4．「新城征孝」の世界／新城征孝［画］；博報堂編 中城村（沖縄県）：那覇通商, 那覇：沖縄教育出版（発売）, 1987.1 K723.1-SH
5．bb：Okinawa Actor's School special dream／加納典明著 東京：小学館, 1998.2 K748-KA
6．少女たちのオキナワ／篠山紀信著 東京：新潮社, 1997.6 K748-SH
7．沖縄：報道カメラマンが見た復帰25年／山城博明著 那覇：琉球新報社, 1998.1 K748-YA
8．正調琉球民謡, 本島編, 八重山・宮古編／

滝原康盛編　那覇：琉球音楽楽譜研究所，那覇：沖縄芸能出版（発売），1997.12-1998.2（演奏実用シリーズ）　K767.5-TA

9．てるりん自伝／照屋林助［著］；北中正和編　東京：みすず書房，1998.1　K767.8-TE

10．［野村流音楽協会読谷支部］創立三十周年記念誌／野村流音楽協会読谷支部編［読谷村（沖縄県）］：野村流音楽協会読谷支部，1997.3　K768-NO

11．聲楽譜附竹富島民謡工工四／崎山三郎編　宜野湾市：崎山三郎，1997.12　K768.11-SA

12．ヤマトンチュのための沖縄音楽入門／金城厚著　東京：音楽之友社，1997.11（はじめて音楽と出会う本）　K780-KI

13．闘牛の島／小林照幸著　東京：新潮社，1997.12　K788.4-KO

8類　語　　学

1．沖縄語漢字資料の研究／多和田真一郎著　広島：渓水社，1998.2　K800-TA

2．スリー・語やびら沖縄口／読谷村教育委員会［編］，第1回-第3回［読谷村（沖縄県）］：読谷村教育委員会，1995.3-1997.3　K880-YO

3．沖縄語辞典／国立国語研究所編　東京：大蔵省印刷局，1998.3（国立国語研究所資料集，5）　K883.1-KO

9類　文　　学

1．やさしくまとめた沖縄の古典文学／野村朝常著　那覇：沖縄文化社，1998.4　K900-NO

2．おもろさうし／外間守善著　東京：岩波書店，1998.2（同時代ライブラリー，334．古典を読む）　K911-HO

3．しりたいねん／灰谷健次郎，石川文洋著　東京：倫書房，1997.8　K911.58-HA

4．花ゆうな：合同歌集，第4集　那覇：花ゆうな短歌会，1998.3　K916-HA

5．田植草紙・山家鳥虫歌・鄙廼一曲・琉歌百控／友久武文［ほか］校注　東京：岩波書店，1997.12（新日本古典文学大系，62）　K918-SH

6．風車祭（カジマヤー）／池上永一著　東京：文芸春秋，1997.11（Bunshun entertainment）　K930-IK

7．果報は海から／又吉栄喜著　東京：文芸春秋，1998.2　K930-MA

8．庶民がつづる沖縄戦後生活史／沖縄タイムス社編　那覇：沖縄タイムス社，1998.3　K950-OK

注）各資料末尾の記号は請求記号です。

お知らせ

◎　夏季休業中の開館時間について

平成10年7月11日（土）～8月31日（月）は夏季休業のため、開館時間が以下のように変更になります。

開館時間（中央館・医学部分館とも）

月曜日～金曜日　8：30～17：00

土曜日・日曜日　休館

◎　長期貸出開始

平成10年7月11日（土）～8月31日（月）は夏季休業のため、6月26日（金）から長期の貸出しを行います。貸出冊数は通常通りで変更はありません。返却期限は、平成10年9月10日（木）です。

なお、長期貸出資料は、貸出延長の手続きはできませんのでご注意下さい。

図書館事情

［会議］

◎平成９年度第４回琉球大学附属図書館自己評価委員会

日　時：平成10年３月11日（水）
　　午後１時30分～午後３時

場　所：附属図書館　会議室

協議事項

１）附属図書館自己点検・評価報告書（案）について

◎平成９年度第218回琉球大学附属図書館運営委員会

日　時：平成10年３月24日（火）
　　午後３時30分～午後４時50分

場　所：附属図書館　会議室

協議事項

１）琉球大学附属図書館研究開発室（仮称）規程（案）について

２）研究開発室員の推薦について

３）平成10年度大型コレクション収集計画書について

４）平成10年度自然科学系図書資料収集計画調書について

５）平成10年度沖縄関係文献資料購入計画調書について

［講演会］

日　時：平成10年３月26日（月）
　　午後３時30分～午後５時

場　所：附属図書館　多目的ホール

演　題：「大学図書館の公開」

講　師：長崎大学附属図書館　佐田事務部長

日　時：平成10年３月30日（月）
　　午後３時～午後５時

場　所：附属図書館　多目的ホール

演　題：「キャンパス移転による図書館の新たな出発」

講　師：大阪歯科大学図書　伊藤淑子課長

日　時：平成10年４月20日（月）
　　午後３時～午後５時

場　所：附属図書館　多目的ホール

演　題：「アメリカ政府情報へのアクセス」

講　師：米国アメリカン大学図書館　Helen Ives レファレンス・ライブラリアン

人事異動

区分	異動年月日	氏名	異動先	現職
転出	平成10.4.1	中澤富男	神戸大学附属図書館 情報サービス課長	琉球大学附属図書館 情報サービス課長
転入	〃	松下彰良	琉球大学附属図書館 情報サービス課長	東京大学附属図書館 総務課課長補佐
配置換	〃	栄野比常子	琉球大学工学部 環境建設工学科	琉球大学附属図書館 資料サービス係
〃	〃	池村恵光	琉球大学附属図書館 資料サービス係主任	琉球大学教育学部 附属学校係主任
館内	〃	与儀実津雄	琉球大学附属図書館 参考調査係	琉球大学附属図書館 資料サービス係
〃	〃	金城守	琉球大学附属図書館 資料サービス係	琉球大学附属図書館 参考調査係

［附属図書館運営委員］ 平成10年4月1日現在

所属部局	職名	氏名	任期	所属部局	職名	氏名	任期
附属図書館	館長	金城 昭夫	～10.10.31	理学部	教授	渡久山 章	～11. 3.31
〃	分館長	武藤 良弘	～12. 3.31	医学部	教授	小杉 忠誠	～11. 9.30
法文学部	教授	川添 雅由	～12. 3.31	〃	教授	宮城 一郎	～10. 9.30
〃	助教授	樋口 一彦	～11. 3.31	工学部	教授	吉谷 清澄	～12. 3.31
教育学部	教授	藤原 幸男	～12. 3.31	〃	助教授	伊良部邦夫	～11. 3.31
〃	教授	水野 益継	～11. 3.31	農学部	教授	小波本直忠	～11. 3.31
理学部	教授	池原 規勝	～12. 3.31	〃	助教授	吉永 安俊	～12. 4.30

［附属図書館医学部分館運営委員］ 平成10年4月1日現在

局	職名	氏名	任期	局	職名	氏名	任期
分館長 第一講座	外科学 教授	武藤 良弘	～12. 3.31	泌尿器 科学講座	教授	小川 由英	～12. 3.31
法医学 講座	教授	宮崎 哲次	～12. 3.31	環境保健学 講座	教授	宮城 一郎	～10. 9.30
生理学 第一講座	教授	小杉 忠誠	～11. 9.30	成人・老人 看護学	助教授	砂川 洋子	～12. 3.31
歯科口腔外 科学講座	教授	砂川 元	～12. 3.31	母子保健学 講座	教授	外間登美子	～12. 3.31
内科学 第二講座	教授	高須 信行	～12. 3.31				

［沖縄研究資料調査収集専門委員］ 平成10年4月1日現在

所属部局	職名	氏名	任期	所属部局	職名	氏名	任期
法文学部	教授	比屋根照夫	～12. 3.14	教育学部	教授	阿波根直誠	～11. 6.20
〃	教授	我部 政明	～12. 3.14	〃	教授	金城須美子	～12. 3.14
〃	教授	保坂 廣志	～12. 3.14	〃	教授	豊見山和行	～12. 3.14
〃	教授	前門 晃	～13. 4.29	理学部	教授	渡久山 章	～11. 9.19
〃	教授	仲程 昌徳	～12. 3.14	医学部	教授	崎原 盛造	～13. 4.29
〃	教授	上里 賢一	～12. 3.14	工学部	教授	福島 駿介	～13. 4.29
〃	教授	赤嶺 守	～12. 3.14	農学部	教授	篠原 武夫	～11. 9.19
〃	教授	森田 孟進	～12. 3.14				

附属図書館の自己点検評価報告書を刊行！

『附属図書館の発展を目指して－現状と課題－(平成10年3月)』と題した附属図書館の自己点検評価報告書（本文48p. 付録・アンケート31p.）が先日刊行されました。

平成6年度に続き2回目となりますが、前回に比べかなり充実した報告書になったと考えています。今回は、学内者だけでなく、学外者も対象にしてアンケート調査を行い、その結果も掲載しています。

本報告書は、近い内に、附属図書館のホームページにも掲載する予定となっています。ご覧になっていただければ幸いです。ご意見ご感想がありましたら、附属図書館総務係までお寄せください。（総務係内線電話：千原8153）

医学部分館だより

◎医学部分館長の就任

平成10年4月1日付けで、外科学第一講座の武藤良弘教授が第9代分館長に就任した。

［武藤良弘分館長略歴］

医学博士　　専門分野：消化器外科学

1967(昭和42)年　大阪大学大学院博士課程修了

1970(昭和45)年　大阪大学微生物病研究所助手

1984(昭和59)年　大阪大微生物病研究所助教授

1984(昭和59)年　琉球大学医学部教授

1988(平成元)年　琉球大学評議員

◎大学院新入生対象オリエンテーション

平成10年度の医学部研究科のオリエンテーションは医学部分館会議室を会場に開催された。5月19日（火）と21日（木）の2日間は保健学研究科15名を、また26日（火）と27日（水）の2日間は医学研究科29名を対象に実施した。外国人留学生を含む1年次に対し「図書館利用」と「CD-ROMによる文献検索」ついての説明を行い、CD-ROMの利用方法については昨年に引き続き、本館の電子情報係が行った。

◎端末機の増設

平成10年5月13日より端末機3台（Windows95）が分館においても増設され、合計7台でインタネットを介して、医学中央雑誌、MEDLINEのCD-ROMを含む各種のデータベースが検索できるようになり、一段と利用者の便宜がはかれることになった。

場　　所：琉球大学附属図書館
　　一階 多目的ホール
上映時間：通常期(水)　①15：00～
　　②18：00～
　　休業期(水)　13：30～

7月1日（水）	メトロポリス	94分	①15:00～	②18:00～
7月8日（水）	民衆の敵	80分	①15:00～	②18:00～
7月15日（水）	カリガリ博士	67分	13:30～	
7月22日（水）	アラビアのロレンス	226分	13:00～	
7月29日（水）	スティング	129分	13:30～	
8月5日（水）	上海特急	82分	13:30～	
8月12日（水）	幌馬車	97分	13:30～	
8月19日（水）	80日間世界一周	169分	13:30～	
8月26日（水）	BACK TO THE FUTUR	116分	13:30～	
9月2日（水）	イタリア麦の帽子	72分	①15:00～	②18:00～
9月9日（水）	ヒズ・ガール・フライデー	92分	①15:00～	②18:00～
9月16日（水）	ローレルANDハーディーの天国2人道中	65分	①15:00～	②18:00～
9月23日（水）	ロイドの悪心無用	66分	①15:00～	②18:00～

※　映写会に関するお問い合わせ・ご要望は、図書館資料サービス係まで　Tel：(895) 8166

琉球大学附属図書館報“びぶりお”第31巻　第3号（通巻第119号）
平成10年7月1日発行
発　行：琉球大学附属図書館　〒903-0214　沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
電話　098(895)8168　Fax.098(895)8169
発行人：附属図書館事務部長　石田　常亞　　編集：“びぶりお”編集委員会